

# 1 基本理念

## 福祉のこころ、人と人の橋わたして 支え合える地域づくり

### 2 基本目標・基本施策

**基本目標 1**  
一人ひとりが主役の  
地域づくり

地域福祉を区民と協働で進めるためには、地域で行われている取組を見たり知ったりする中で、地域への関心や地域づくりの意識を高めていくことが大切です。  
また、さまざまな地域活動の主体となっている人たちを支えるとともに、中原区で生活する多様な人たちが互いを認め合い、助け合える環境が次世代につながるよう、活動する仲間を増やす取組を推進します。

- 基本施策**
- 1 誰もが参加できる健康・いきがいづくり
  - 2 ボランティア・地域活動支援 ◀◀ 重点
  - 3 地域で活動する仲間を増やす ◀◀ 重点
  - 4 地域課題の解決に向けた支援の充実

**基本目標 2**  
必要な支援やサービスが  
的確に届けられる  
仕組みづくり

地域福祉に関する情報を区民に届けるために、転入時や赤ちゃんが生まれた時など、機会を捉えた適切な情報発信をより充実させます。また、困りごとを抱える人には、早い段階からの相談支援を充実しながら、高齢者や障害のある人、外国人住民の人たちが適切な支援を受けられるよう取り組みます。

- 基本施策**
- 1 情報提供の充実 ◀◀ 重点
  - 2 包括的な相談・支援機能の充実 ◀◀ 重点

**基本目標 3**  
多様な主体が連携した  
施策・活動の推進

様々な主体間のネットワークを充実させることで、情報共有や地域包括ケアへの理解を深めてもらうとともに、連携して地域福祉活動を推進していくための仕組みづくりに取り組みます。

- 基本施策**
- 1 地域の見守り・支えあいの推進
  - 2 保健・医療・福祉の連携
  - 3 市民・事業者・行政の連携・協働
  - 4 社会福祉協議会との連携・協働

**基本目標 4**  
地域参加の  
仕組みづくり

区民の多様なニーズを受け止めながら、さまざまな地域資源をつなげることで、これまで地域活動に参加しづらいと感じていた人も気軽に参加できるような取組を引き続き進めます。また、区民が自分らしく、生活の質や生きがいを追求しながら日常生活を送れる地域の実現に向けて、関係機関と連携しながら地域活動の伴走支援を行います。

- 基本施策**
- 1 活動・交流の場づくり
  - 2 地域マネジメントと地域コミュニティの推進 ◀◀ 重点

## 中原区地域福祉計画はこんな計画

中原区は7区で最も人口が多い区で、若い年代が多く、子どもの数も増えています。一方、ひとり暮らし高齢者も増加傾向で、障害のある人や外国人住民の数も増えています。「中原区地域福祉計画」は、区民が抱える生活課題に区民自らが主体となって取り組み、さらに地域全体で支援するための計画です。



策定にあたっては、各種調査データや中原区の現状・課題を踏まえ、各種団体の代表等による委員で構成された会議でご意見をお聞きしながら内容を検討しました。

**1 各種統計調査から**

- 1年間で約2万2千人の転入及び約2万千人の転出があり、人口の社会増が続いています。
- 人口増加に伴い高齢者人口も増加しています。高齢者の5人に1人以上はひとり暮らしという状況です。
- 外国人住民人口が平成30(2018)年から令和4(2022)年までの5年間で800人以上増えており、市内で2番目に外国人住民が多い区です。
- 児童相談所・区役所に寄せられる児童虐待相談や通告件数が増加傾向です。
- 人口、世帯数は増加していますが、町内会・自治会等の住民組織加入率は減少傾向が続いています。

**2 川崎市地域福祉実態調査から**

- 近所づきあいの程度は、「ほとんどつきあいが無い」が7区の中で最も高くなっています。
- 町内会・自治会に加入していない理由については、「不便を感じない・必要性を感じない」が37.0%と、市全体より4.2ポイント高くなっています。
- どのような状況になれば、地域活動やボランティアに参加したいと思うかについては、「きっかけがあれば」が最も高く、次いで「活動する時間があれば」となっています。
- 孤立死を防ぐためどのようなことが有効だと思うかについては、「地域住民による声かけ、見守り」が最も高くなっています。
- 保健や福祉に関する情報の入手方法については、「市の広報」が最も高く、次いで「インターネットのホームページ」となっています。

**3 地域で活動する方の意見(中原区地域福祉計画推進検討会議から)**

- 高齢者や障害者の方は情報が取りにくい課題がある。民生委員や地域で気付いてくれた方がいればいいが、正しい情報がなければ動けない。
- 地域への愛着が生まれた人に担い手になってもらうためには段階があって、行政や地域の方も含め、どう背中を押していくか、知恵を絞っていく必要がある。
- 人の輪を作っていくためにも、一人ひとりをつなげていきたいが、昔と比べてつながりづらくなってしまっている。
- 気付いた人・動いた人の方が損だという社会、反対に何もしない方が得をする社会にしない、というのが多分、地域福祉で最も大事なことだと思う。

